

在来作物と野生植物の再評価と活用に関する研究

キーワード 伝統知，食文化，特性評価

2

伝統を
ゼロに

12

つくる責任
つかう責任

15

後の豊かさも
守らう

■ 研究概要

山形県には190種類近くの在来作物、数十種類の山菜など食用野生植物といった伝統的な植物資源が継承されています。しかしながら生産・流通効率の悪さ、特に若い世代への知名度の低さ、高齢化に伴う栽培者や採集・保存の知恵の消失などの理由で、継承されないまま消えゆくとしています。

在来作物は地域の歴史や文化を伝えるとともに、地域の個性を豊かにシンボリックに表現してくれます。またその活用はしばしば地域の活性化にもつながります。山菜や食用になる野草は米沢藩が刊行した「かてもの」に見られるように救荒食になり、食べ方にも伝統的な知恵と技術があります。さらに身の回りの食用植物を食べることは地域の自然環境に目を向けて良い状態に保つ動機につながります。

私は山形の植物資源のモノと情報を次世代に継承するために、歴史や文化とともに、農業特性や食品特性、遺伝的類縁関係など、学際的な視点で調査・記録を続けています。



■ どのような共同研究・連携に結びつけられるか？

- ・ 地域資源を活用したイベント、特産品のアイデアの提供
- ・ 保育園、小中高校などでの食農教育・総合学習のヒントの提供

江頭 宏昌 教授 EGASHIRA, Hiroaki

専門分野：植物遺伝資源学

E-mail : egashira@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

